

結い YUI

「結い」とは、田植などの時の助け合いのことを言います。土くさく温かい言葉です。

発行者 山梨県人権擁護委員連合会
事務局 〒400-8520
甲府市丸の内一―一八
甲府地方事務局内
電話 (055)252-7239

ICT化にあと一歩

委員の勇気が不可欠

ICT推進本部長

山田 勝彦

県連のICT化への準備は着実に進み、その基礎になるEメールの開設率は、事務局会議のメンバーはむろん、甲府協議会の常務委員会などが一〇〇%を実現、単位グループの中にも一〇〇%を達成した所も目立って来ました。でも協議会、グループによっては、バラツキがあり、全般的にはあと一

歩です。山梨県の人権擁護委員の平均年齢は六七歳。アナログ世代と言ってもいいでしょう。

しかし、私達の身の回りでは、好むと好まざるとに関わらず、電子化が進み、ICTは生活機能の一部になってきています。それを避けて通ることはできません。ICT化の推進は人権擁護委員の「活動」そのものではありません。

活動を円滑にするための必要不可欠な手段です。増大する事務量や通信の省力化や迅速

化はむろん、経費の節減も考えていかなければなりません。委員活動に欠かせない情報の共有化も迅速に行わなければなりません。子ども達のいじめ問題も今やICTを知らずして対処することはできません。Eメールによる相談体制の確立も近々の課題でしょう。

ICT推進本部は、年内をメドに無料のパソコン講座を続けます。希望があれば出前講座も行います。やってみて下さい。触ってみて下さい。県連事務局に電話してみして下さい。

相乗効果に期待

県連副会長 乙黒幸江

「結い」三十三号の発行に当り編集に携わった皆さんのご労苦に心から感謝申し上げます。

現在、全国の人権擁護委員は、一万四千人。八つのブロックに分かれ、我が山梨県連が属する関東ブロックは人数的に一番大きい。

山梨県連は、甲府、峡南、都留の三協議会から成り、委員数は二百一六名。関東の中で一番小さな組織ですが、ICT化の推進により、会議の招集はもとより、委員間の連絡など情報の伝わりが早く、これによる委員のまとまり易さにも相乗効果による大きな成果を感じています。また、

関東ブロックの会議などに出席した時、感じることは、山梨は先輩方のご苦労のお蔭があつて、県連・協議会共にしっかりと自主運営の定着で実り多い活動がなされていることです。人権擁護委員の三つの活動、とりわけ全委員が関わる啓発と相談活動に対しては更に研鑽を積み、努力して行きましよう。

人権思想の徹底が図られるよう、委員全員がこれからも日々開始され、最後には記念写真をもう一枚。笑顔でパチリ写真。参加された皆さんには、早朝から大変お疲れ様でした。

世界文化遺産富士山で人権啓発



黄色のベスト隊集結

都留協議会 岡本和洋

七月三十日、県連恒例の富士山人権啓発活動は、中澤会長をトップに協議会からは、甲府一

九名、峡南四名。都留一八名。更に甲府地方事務局から中根局長をはじめ、五名が参加。黄色のベスト隊四六名が集結。富士山五合目広場と登山道入口付近で実施しました。午前八時、富士ビジターセンターに集合。ラッピングバスをバックに記念写真と安全確認。そして、五合目に向かいました。地元の委員から「こんな景色のよい富士は、見たことがない」などの声が聞かれるほど、好天に恵まれ、五合目では、先ずオープンニングセレモニーを行い、啓発活動を開始。まもるくんとあゆみちゃんのポールチェーンや人権うちわを手渡し、人権擁護の大切さを訴えました。富士山は世界文化遺産に登録されて二年目。外国人が多く、流石に世界の富士山。誰となく清掃活動も

身延中学校で人権教室

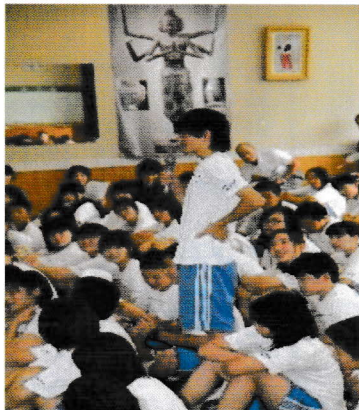
峡南協議会

島田三貴子

七月十一日、夏休みを前にした全校生徒百三十四名を対象に人権教室を開きました。

実施内容の特徴は ①人権擁護委員による授業展開 ②人権の基本概念を学ぶ ③生徒自身の生活に人権を考える ④他人の意見を聞いて人権の大切さを学ぶ、などの四点です。

まず、映画「アミスタッド」(スピルバーグ監督)の一部をDVDで二〇分間視聴後、映画の感想を発表し合ってもらいました。続いて「いじめの直し方」(朝日新聞社刊)を班の代表者に輪読してもらい、考える。と



いう方法で実施しました。午後二時という時間帯、誰一人として睡魔に襲われることもなく、最後まで真剣に参加されていた生徒一人ひとりの姿に感銘を受けました。九月に行われる予定の文化祭のテーマが「人権と福祉」ということもあつて、今回の人権教室は、極めてタイムリー

で、効果についても生徒の感想や反響の中からハッキリ知ることが出来ました。【生徒の感想】
①映画は、息をするのも忘れるほど、衝撃的な内容であつた。
②白人は黒人と云うだけで、黒人の人権を侵害し奴隷として扱うという痛ましい姿に「人権」の大切さを改めて理解した。③日本では考えられない。④身延中学にはいじめはないが、登校拒否は見かける。もし、いじめが原因なら「いじめは絶対に無くさなければいけない」。と考えさせられた。⑤「ノリ」という言葉に思い当たる節があつた。

これからは他人の気持ちも考えるなど、道徳を身に着けた人間になりたい。などの感想に、参加委員一同は安心すると共に、委員なら誰でも、いつでも授業がリードできるようマニュアルのストックなど、理想的な人権教室の定着に努力していきたいと思ひました。

「結い」に寄せて

甲府地方法務局

人権擁護課長

本庄 仁明



人権擁護委員の皆さん本年四月一日から、お世話になっております。よろしく

お願いします。出身地は栃木県那須烏山市で兼業農家の長男です。現在は退職した父母が細々と稲作と自家用野菜を作っています。父母は現職の時、農繁期(田植・稲刈りなど)にはなかなか休暇が取れず、見かねた

組内の人が「よいばか」と言つて作業を手伝ってくれました。母は「よいがえし」と言つて手伝ってくれた方々に農作業を手伝いました。私の田舎でも「結い」の言葉と同じ助け合いの風習・精神は残っていました。さて、現在は少子高齢化が進み核家族で相談する人がいません。悩んだ末に虐待事件が発生しており、このような悲しい事件を未然に防ぐためにも地域の相談役として積極的な活動をお願いいたします。

大空の赤青黄の風船

甲府協議会

甲府G 友松 本子

県下二十一校のトップを切つて、甲府市立湯田小学校で人権の花運動の花の贈呈式を行いました。式には、黄色いベストを着た甲府グループの全委員十七名のほか、甲府地方法務局中根



後日、同校を再訪問した時、玄関前に、あの人権の花々が元気に咲いていて、学年毎に大切に育てられている様子が伺えて、大変嬉しく思いました。

グループ紹介

葦崎グループ

(甲府協議会)

葦崎グループは、男性四名、女性四名の八名で運営し、毎月第一月曜日には定例のグループ会議を開いています。会議には市の行政部署の担当者にご出席していただき、学習会なども一緒に実施し、市との関係強化を図っています。特に今年の人権の花は、市制六十周年を記念、市内の全小学校五校で実施しました。飛ばした風船は群馬県の富岡製糸場地域などの学校に届き、電話、FAX、手紙に加え、生徒数のボールペンが贈られるなど、学校間の交流と云う新たな輪が広がっています。次回は保育園で紙芝居を計画しています。また、中学生人権作文コンテストでは、この機を捉えた講演会を計画、葦崎西中学校で実施しました。また、人権擁護委員の日の活動では「時刻表」を、花火大会では「人権うちわ」を配布しました。

(グループ長 保阪 三郎)

指導者養成研修

― 研修報告 ―

法務省人権擁護局主催の人権擁護委員指導者養成研修が九月二日～五日までの四日間、東京で開かれました。同研修は初めて。都道府県からは事務局等を担う二名の委員が参加。計百名が一堂に会し十一名の講師から約二十二時間の研修を受けました。

最初は、法務省の岡村人権擁護局長の「人権擁護の情勢」と題した研修では、冒頭、人権擁護委員の日頃の活動に対し、労いと感謝の言葉があり、人



<研修を受ける委員たち = 日本消防会館で>

権課題としては、「人権相談では他機関を紹介するばかりではなく、より速く少しでも手を差し伸べる手段を講じて欲しい」、また「ジュネーブの国連本部から日本に対し注文がつけられているヘイトスピーチの問題。更にはスポーツの応援を通じて起きている人権問題についても法務省が対応している。人権擁護委員の皆さんには、引き続き人権啓発活動などに協力していただきたい」と述べられました。そして、最後には「執務上必要なICTの導入についても取り組んでいきたい」と、結

ばれ、山梨のICT化に対する期待ともとれ、安心と納得のできる研修でした。三日目にはグループ討議が行われ、予め全員がレポートしていた「委員組織体の体制を充実・強化する方策」については、熱のこもった討議のほか、他県連の方々との情報交換の場にもなつて「井の中の蛙」が天下を見た感じさえ。最終章では「今、子どもたちは―非行・犯罪・薬物乱用―いじめ

・引きこもり・リストカット・自死・その背景と対策」と題した講演を聞ききました。講師には、「夜回り先生」でおなじみの水谷修先生。数々の体験に基づく事例には涙あり、そして聞き入り、四日間の研修を修了しました。感想としては、明日からの活動にすぐ役立つ意義ある研修でした。本研修は、今後も計画され、また研修内容は、DVDに収録・編集し、後日配付されます。【受講報告者】増坪總明 矢崎 淳

新任・退任の委員

新任

(敬称略)

- ▽三枝千瑞(笛吹)、丸山達也、廣瀬博、熊谷えり子、山田克巳(甲州)、長田ひさ江(甲斐)、外川正知恵(富士河口湖) 〓二十五年四月一日付
- ▽高野秀代、志村正樹(韮崎)、角野博美(西桂)、原田廣秋(上野原) 〓同七月一日付
- ▽大澤正(山梨)、川手一郎(甲斐)、永井清司(昭和)、入戸野武一(北杜)、春澤政志(身延)、渡邊充(富

退任

- ▽堀内圓(笛吹)、金子進、中村光壽、古屋美代子、西矢恵太郎(甲州)、田中慶子(甲斐)、蒔田弥生(富士河口湖) 〓二十五年四月一日付
- ▽小林亘子、古井明男(韮崎)、佐藤工(西桂)、守屋光泰(上野原) 〓同七月一日付
- ▽日原元之(山梨)、上野敬一(甲斐)、松木安子(昭和)、小野幸男(北杜)、赤池善光(身延)、山田博慶(富士河口湖) 〓同十月一日付
- ▽蘆原一雄(笛吹)、内田安雄(北杜)、望月一男、大

編集後記

野義嗣(早川)、幡野幸子(身延)、立田功、高村君子(山中湖)、倉澤洋一、渡辺秀一(富士河口湖) 〓二十六年一月一日付

▽田邊紀俊(甲州)、長谷川利行(南アルプス)、矢澤豊晴(甲斐)、内藤正信(中央)、小林容正(鳴沢) 〓同四月一日付

▽神宮司昭子(笛吹)、山田洋子(昭和)、望月典子(市川三郷)、奥秋正徳(西桂) 〓同七月一日付

編集委員が交替して「結い」三十三号が発行の運びとなりました。慣れない作業に戸惑いましたが、事務局と編集委員が「結い」のごとく団結しました。新編集委員は、次のとおりです。以後をご期待ください。感想やご意見など、お寄せください。お待ちしております。

- ▽新編集委員
- ・深澤 正史(峡南協議会)
- ・土橋 利男(甲府G)
- ・古屋 礼子(甲府G)
- ・田草川睦美(笛吹G)
- ・丸山 達也(甲州G)
- ・恵星 富子(南アルプスG)
- ・岡本 和洋(都留協議会)